

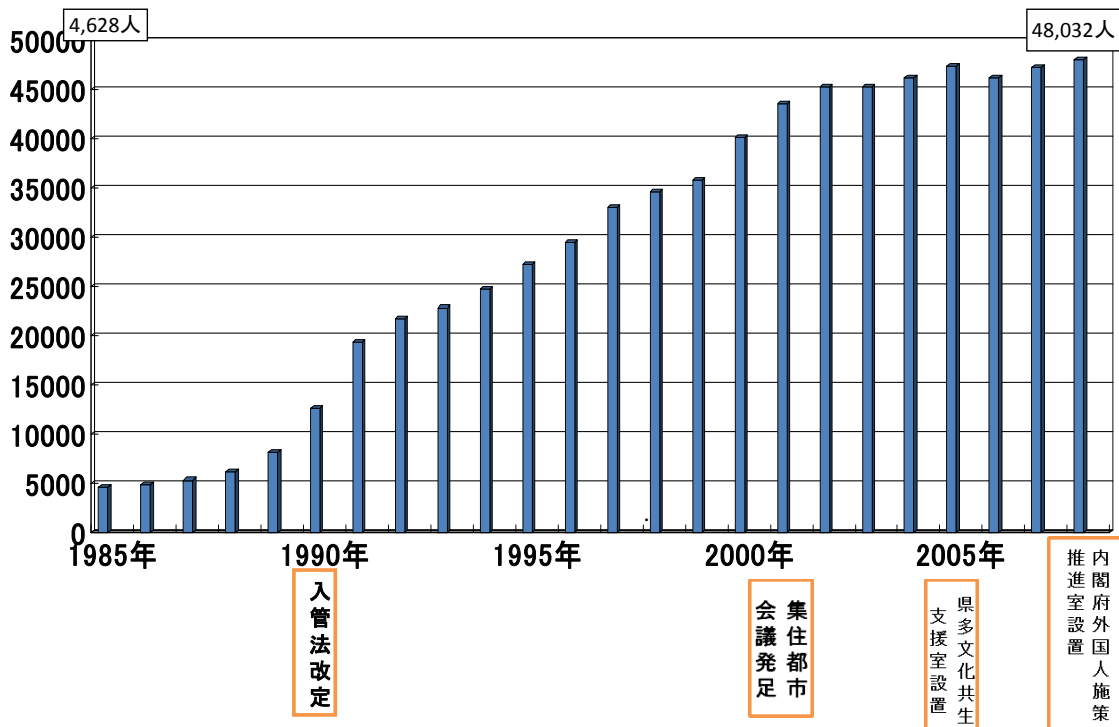
多文化共生社会の形成に向けて —— 群馬県の施策 ——

群馬県生活文化部国際課 山口

1

群馬県の外国人登録者の推移

2008年12月現在 108ヶ国 48,032人 県人口の2.39%



2

群馬県の施策の方向性

(群馬県多文化共生推進指針 19年10月策定)

外国人問題としてではなく地域の課題として捉え、県の役割や県としての施策の方向性を明確にする

多文化共生について 県民の理解を深める

- 地域シンポジウムの開催
- 地域住民による外国人との共生事業支援

外国人県民の社会参画を進めるための環境を整備する

- 教育 専任教員配置、外国人相談窓口設置
外国人学校支援、日本語教育の実施
- 保健・医療・福祉 外国人未払い医療費負担、医療通訳制度
ソーシャルワーカー育成、外国人学校健康診断
- 情報提供 生活案内DVD利活用
- その他 災害時訓練等

推進体制を整備する

- 多文化共生地域づくり懇談会
- 庁内推進検討委員会設置
- 他県との連携による要望活動等
- 各種調査の実施



多文化共生社会の実現による豊かな地域づくり

多文化共生を推進するキーポイント1

仕組みをつくる

- 対症療法だけでは問題は解決しない。
基本的な方針のもとに、制度や仕組みがあって、はじめて対症療法が効果を発揮する。

事業例1 外国人学校での健康診断事業

外国人学校では健康診断が行われていない。子供たちの心身の状況や発達の度合いなどのチェックがなく、感染症への備えもない。

群馬県では、H14から群馬大学が健診に取り組み、その後H17から県と連携して実施。**しかし、制度化されていない。**

毎年、要医療35%、肥満度33%などの健診結果である。



群馬大学による健康相談会

制度化へ向けての検討

県・市町の保健担当部門、群馬大学と協力して、制度化に向けて検討しているが、実現に至っていない。

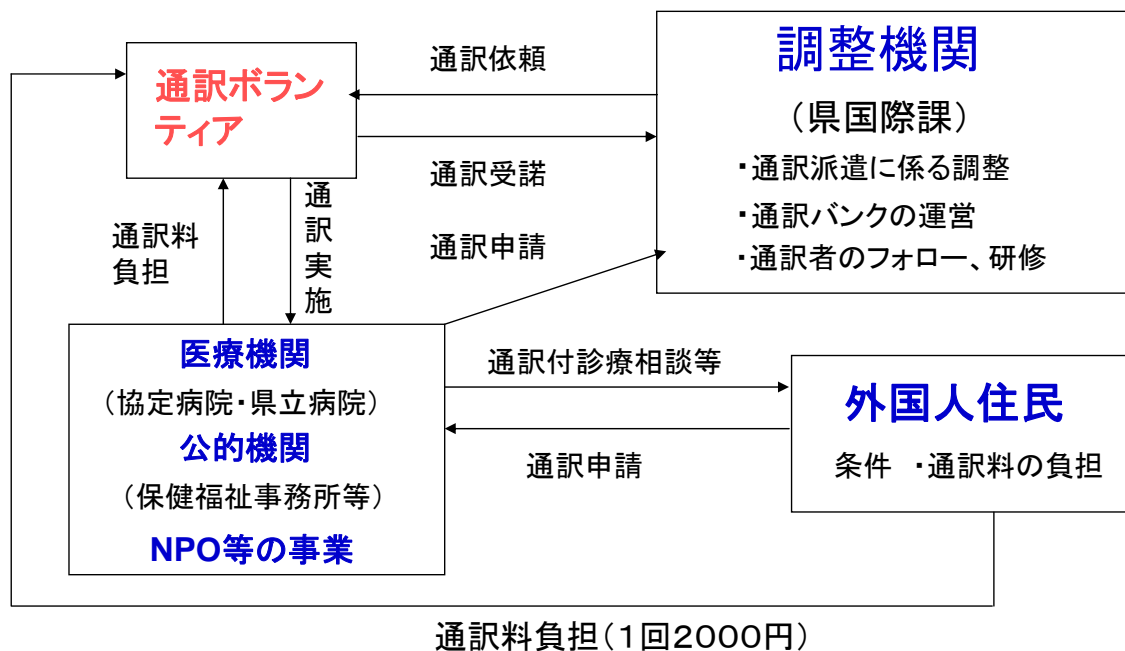
外国人学校への保健支援

- 健康診断実施
- 健康相談会、健康教室開催
- 多言語による情報提供

5

事業例2 メディカルインタープリター派遣制度

- メディカルインタープリター 73人(英20、中22、ホ12、ス13、タイ3、韓1、ベト2)
- 派遣制度の実施 18年6月開始
- 課題 負担の問題、派遣の条件など



6

多文化共生を推進するキーポイント2

日本人住民の意識の醸成

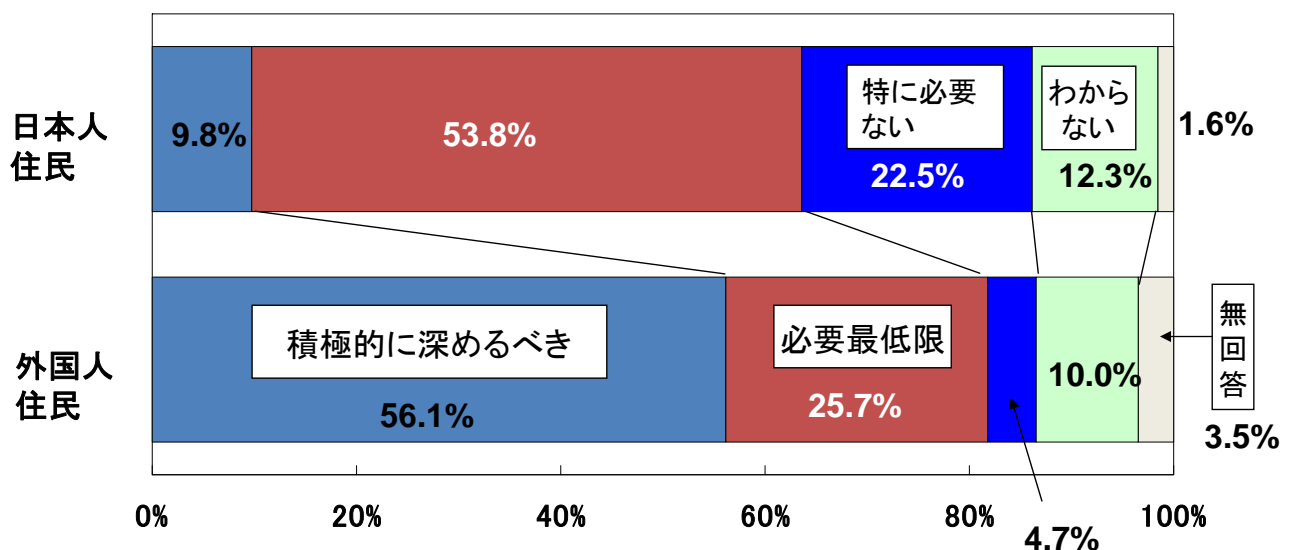
- 「多文化共生」は、私たち日本人の問題である。今後さらに進展する社会の多文化化に私たちはどう対応し、どういう社会を構築していくべきか考えていかなければならない。

7

<18年度多文化共生地域づくり調査から>

集住地域における

互いの交流についての考え方



8

日本人住民に働きかけるために

事業例 地域シンポジウムの開催

シンポのねらい

- 県内各地で多文化共生を考えてもらうためのきっかけづくりとする
…地域ごとに多文化化の状況やその課題が大きく異なっており、
地域の実情に応じた社会のあり方をともに考え、共有する
- その地域でネットワークの中心となって活躍できる人材の発掘
また、市町村行政関係者等への研修も兼ねる

シンポの概要

県内5ヶ所で開催予定
基調講演は毎回同じ…地域の受け取り方の違いを見る
事例発表は地元在住関係者

シンポを実施して

- 集住地域と中山間地との違いを痛感
- 中山間地こそ地域の活性化のためには多様性の導入が必要

外国人が一人もいない地域においても多文化共生の
考え方は推進しなければならない

9

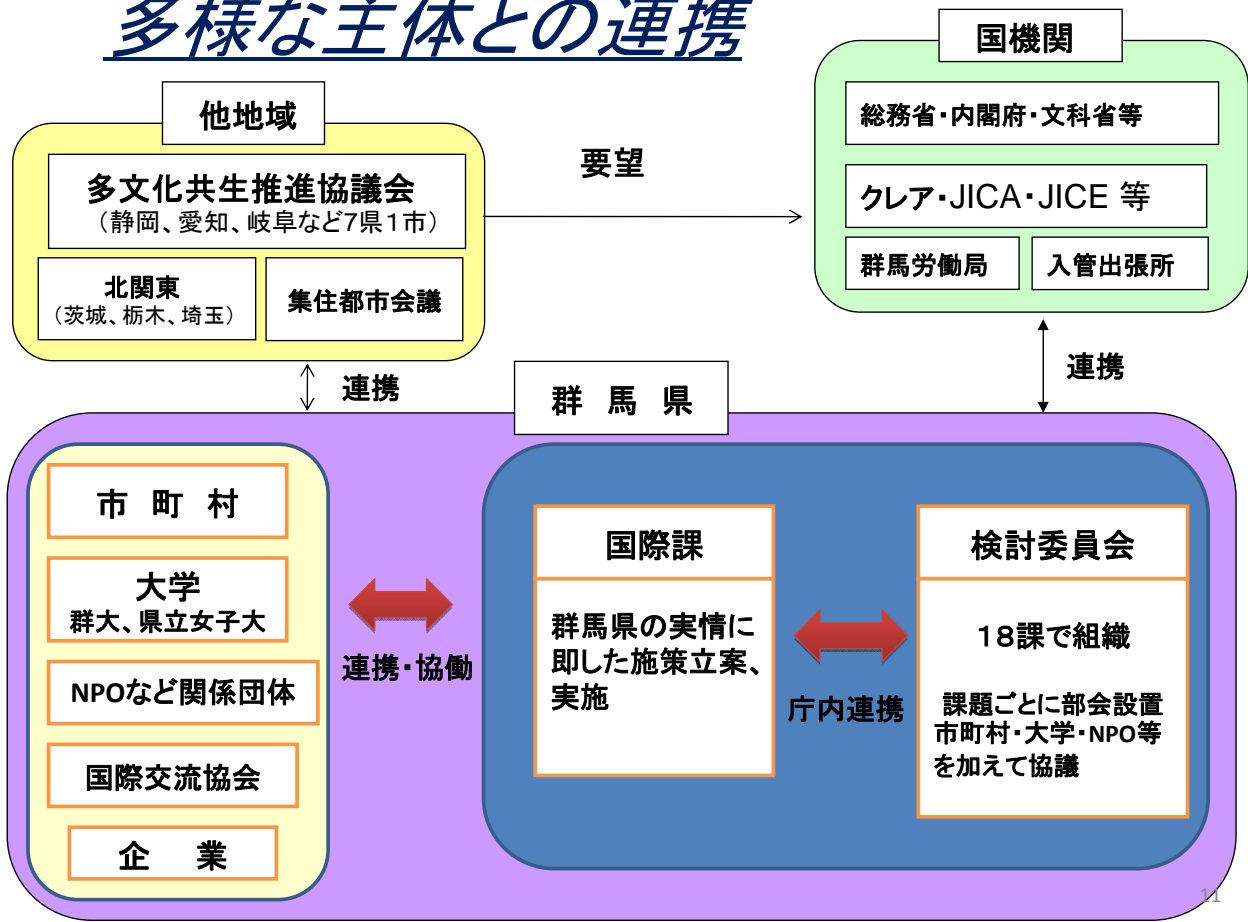
多文化共生を推進するキーポイント3

連 携

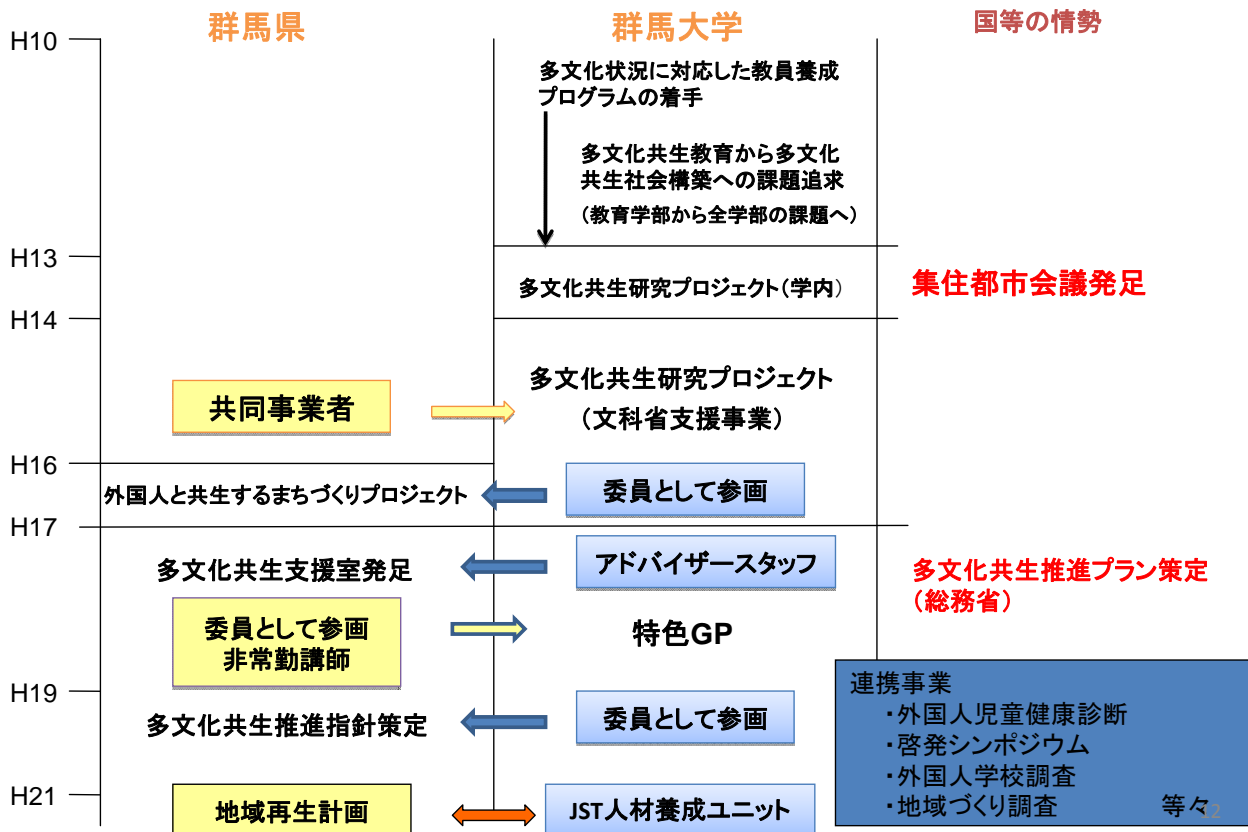
- 行政だけの力では進展しない。 地域住民をはじめ、NPO、大学や企業など地域を構成している様々な機関、団体との連携が必要
- 人と人とのつながり、組織と組織のつながりの中から新しい力が生まれる

10

多様な主体との連携



連携の例 県と群馬大学



多文化共生を推進する意義

